

平成 25 年度一般会計予算 反対討論内容

今回提出された予算は、骨格予算と言いながら、総額 711 億円と、昨年度当初予算より 41 億円も多い予算となっております。

その中身を見ると、この増額分は主に市債の発行・基金の取り崩しによるものとなっております。人に優しい予算は非常に聞こえが良いですが、宝塚市の良質なイメージである『国際的な観光・文化都市』の名に恥じないまちづくりのため、無駄の無い効果的な投資によって、他市からも人が集い・賑わいがあり・市民が誇れるまちを作って行かねばなりません。

しかしながら、毎年この分野の予算は減り続け、次年度予算では、711 億円のうち商工費では約 6 億円でわずか 0.9%、土木費では約 63 億円の 8.8%という状況です。この値は、昨年 12 月議会一般質問でも明らかにさせて頂いた様に、全国同規模の特例市と比べても、全体予算に占める割合は低い値となっております。

しかし、現在の厳しい財政状況のもとで、その財源確保のための経営努力は見受けられません。特に賃金等を含む人件費は約 145 億円計上されていますが、これは全体の 20.5%を占めています。

更に、総務省から 2/8 付けで「平成 24 年地方公務員給与実態調査結果」が出ました。それを見ると指定都市 20 市を除く全国市区町村 1722 団体の中で、国家公務員と同じベースで算出した平均給与月額、ついに「全国で 1 番職員給与が高いまち」ということになりました。

これまで、議会での一般質問やその他の様々な会議を通して、人件費の削減に対して大きく声を上げて参りましたが、当局は一切聞き届けることは無く、本来市民のために使うべき税金を、人件費に当ててきたと言わざるを得ません。

人件費削減などの財政改革を行うなど、宝塚市としての姿勢が全く見られないこの予算に反対致します。

資料 宝塚市及び同規模団体（特例市全国 40 市中、人口 30 万人未満のもの）との財政比較

(単位:円)

	民生費	商工費	土木費	教育費	その他	合計
H14 年度決算額	169 億	18 億 8 千万	160 億	85 億	280 億 8 千万	713 億 6 千万
宝塚市割合	23.68%	2.52%	22.46%	11.92%	39.42%	100%
特例市 31 市平均	23.26%	3.66%	20.77%	12.05%	40.26%	100%
H19 年度決算額	215 億 9 千万	7 億 4 千万	92 億 7 千万	67 億 3 千万	254 億 9 千万	638 億 2 千万
宝塚市割合	33.58%	1.15%	14.42%	10.46%	40.39%	100%
特例市 31 市平均	28.59%	3.11%	16.52%	11.03%	40.75%	100%
H23 年度決算額	279 億 4 千万	7 億 1 千万	65 億 6 千万	74 億	251 億 8 千万	677 億 9 千万
宝塚市割合	41.21%	1.04%	9.68%	10.92%	37.15%	100%
特例市 31 市平均	35.38%	3.44%	12.89%	10.39%	37.90%	100%
平成 25 予算額	291 億	6 億 1 千万	62 億 7 千万	62 億 2 千万	289 億	711 億
宝塚市割合	40.99%	0.86%	8.84%	8.76%	40.55%	100%

「無駄な公共事業」「コンクリートから人へ」「少子高齢化」というキーワードの中、H14 年から H25 年にこれだけの財政構造の変化がありました。しかし、同規模団体と比較してみると、我市の財政構造は、より民生費の予算に占める割合が高く、商工(観光)費・土木費に占める割合が低いことが判ります。

本会議の発言は宝塚市議会議会中継 3/19 分 01:20 頃 見る事が出来ます